



2015年10月15日

底の見えないブラジルの消費不況

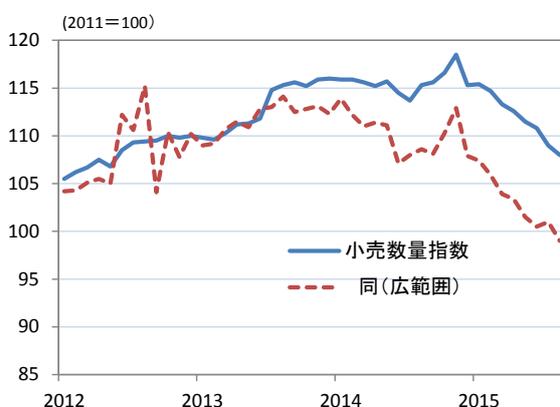
公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

8月のブラジルの小売数量指数（季節調整済み）は、前月比-0.9%となりこれで7か月連続の低下となった。7月も当初発表の-1.0%から-1.6%に、6月も-0.5%から-0.6%にそれぞれ下方修正された。その結果、8月の前年比は-6.9%となり、自動車と建材を含めた広義指数は前年比-9.6%に落ち込んだ。自動車販売は前年比-12.9%に沈んでいる。

消費悪化をもたらしているのは、今年に入ってから急速に雇用環境が悪化してきていること、インフレ率の上昇が止まらないこと、借入金利も上昇していることなどによる。失業率はこの1年で2.6ポイント上昇し7.6%になっている。そのため、消費者信頼感指数は2006年9月の統計開始以来の最低に沈んでおり、しかも底打ちの気配もない。

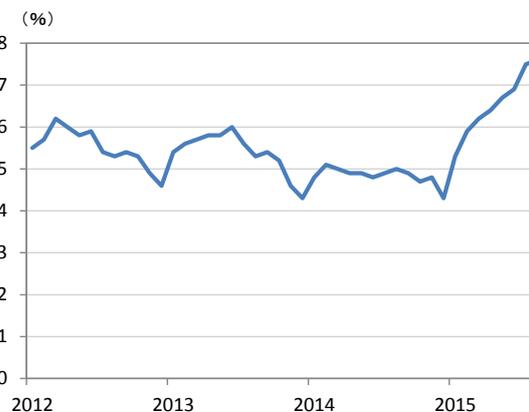
そのうえ新たな懸念材料も浮上してきた。インフレ予想が再び上昇に転じてきたことだ。足元のリアル対ドル相場は1ドル=3.8リアル、一時は4リアル台に下落した。そのため、一時は沈静化に向かっていたインフレ期待が再び上がってきている。2016年の予想インフレ率（エコノミストらの予想の平均）をみると、9月調査時の5.5%から10月調査では5.9%に、2017年についても4.6%から4.9%へと上昇している。

小売数量指数



(資料) Thomson Reuters

失業率(都市部)

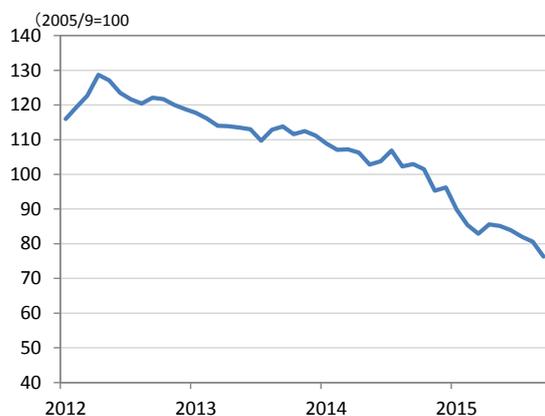


インフレ期待の上昇が止まらない場合、ブラジル銀行は利上げ再開に向かう可能性が

あるが、それは一方で財政負担を高める。現在ブラジルの財政赤字は、景気悪化と金利上昇によって GDP 比 9.2%程度になっている模様だ。そのうち 8.5%分は金利負担でわずかに 1 年前の 4.75%相当から跳ね上がっているからだ。

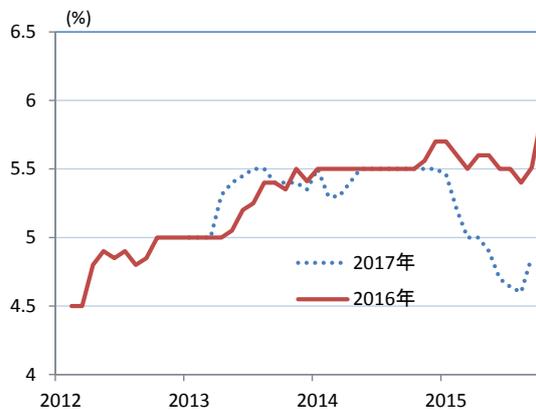
景気悪化、インフレの進行、財政の悪化。三重苦の出口はまだみえてこない。

消費者景気信頼感



(資料) Thomson Reuters

民間エコノミストによるインフレ率予想



当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。